

(B) 実習受入機関の意見  
実施した実習プログラムについて

(H28年度 春)

受入機関	実施した実習プログラムの良かった点	実施した実習プログラムの悪かった点
県	と畜検査（牛、豚）の体験と HACCP に基づく検証業務や牛肉輸出に関わる業務や事務処理など少し理解してもらえたことです。検査室での理化学検査実習では、駆虫薬標準品を希釈し高速液体クロマトグラフィーを体験してもらいました。標準品の希釈やメスフラスコの扱いなど研修生にとって初めての体験ができた。	現場での実習（と畜検査）となると危険な場所もあり、研修生の立ち位置が十分に確保できないため、結果的に現場実習時間が短くなってしまいました。精密検査の実習をするには、説明者を専任で職員一人を貼り付けなければならないため、どうしても時間が決まっている講義時間が多くなったこと。
県	HACCP施設における衛生管理についての学習、施設見学。	

(H28年度 夏)

市	プログラムのほとんどを単一の建物内の各部署で行うため、食中毒調査の緊急対応時に、プログラムを柔軟に変更して体験してもらえた。	施設の許認可検査は、実習中にどのような検査が何件入るかは、申請件数次第であるため予測不可能であり、プログラムの内容の詳細を直前まで確定できなかった。検査室での検査は GLP に基づいて実施しており、学生に体験してもらうことができないため、見学のみとなってしまう。また、体験用の検査を準備する余裕がない。
県	大学の講義や実習で学んだ手法が、実際の食品検査の現場でも使われていることを知り、良い刺激となったようだ。	
県	通常の検査を実習中、敗血症等疑いの保留豚も出て精密検査まで実習させることが出来た。	
県	衛生研究所で活躍する獣医師職員から、担当業務の紹介をすることができた。	
県	食品衛生監視、薬事監視等への同行や、試験検査の実務等を学習することにより、保健所の仕事を具体的にイメージ出来たこと。	
国	当所の業務について、検定業務から検定で使用した動物の札処分まで幅広く学んでもらえたと考えている。	
市	生活衛生課の各係の内容をまんべんなく網羅したことで、保健所業務を知りたい実習生の満足のいくものとなったと思う。	
市	幅広い分野で実施できた点。	就労体験という意味では、体験型の講義が少なかった点。
市	短期間で、公務員獣医師の主な職場となる4ヶ所の施設を経験して頂くことができた点。受講学生からは、公務員獣医師の業務概要と、各職場の雰囲気を経験出来てよかったとの感想があった。	複数職場を経験して頂くことができた反面、短期間で深い内容までの理解して頂くことは難しかったのではないかとと思われる。複数職場を広く経験して頂くことと、1ヶ所の職場でより深い内容まで知って頂くことの、どちらに重点を置く方が有効かは、受講する学生のニーズによって異なるものと思われる。

県	食肉衛生、食品衛生、動物愛護について、それぞれの出先機関で研修を実施できたので、公務員獣医師の職務について幅広く学んでもらえた点。	各機関での研修がそれぞれ1日と短いこともあって、職務の説明、見学が基本となり、実務体験としては物足りないかもしれない。
県	実務体験型の実習ができた点。	20歳を過ぎれば挨拶や礼儀、受講姿勢（コミュニケーションの取り方）などは一般常識として習得しているものと思い込んでいたのが誤算だった。 こういう部分（できている方もいらっしゃいますが）について、受け入れ施設で（実社会体験として）教えるべきものか、送り出す大学側で教えるのか、どこで学ぶべきものなのか判断できない状況にある。
県	業務の現場に帯同させることにより、具体的な事例の体験ができた点。	特になし。
県	試験室検査及びと畜検査の実習ができた点。	特になし。
県	畜産研究所の研究員の思い（家畜改良とか畜産振興）に触れ、最先端技術もかいま見ることができたようです。	特になし。
市	市立水族館を活用した実習を行うことができた点。	特になし。



## 参考資料 5

VPcamp 手引き 受入機関用

(2016.9.ver.)



# *VPcamp* 手引き

文部科学省 大学における公共獣医事教育推進委託事業  
分野1 公衆衛生行政等における全国の実習システムの構築

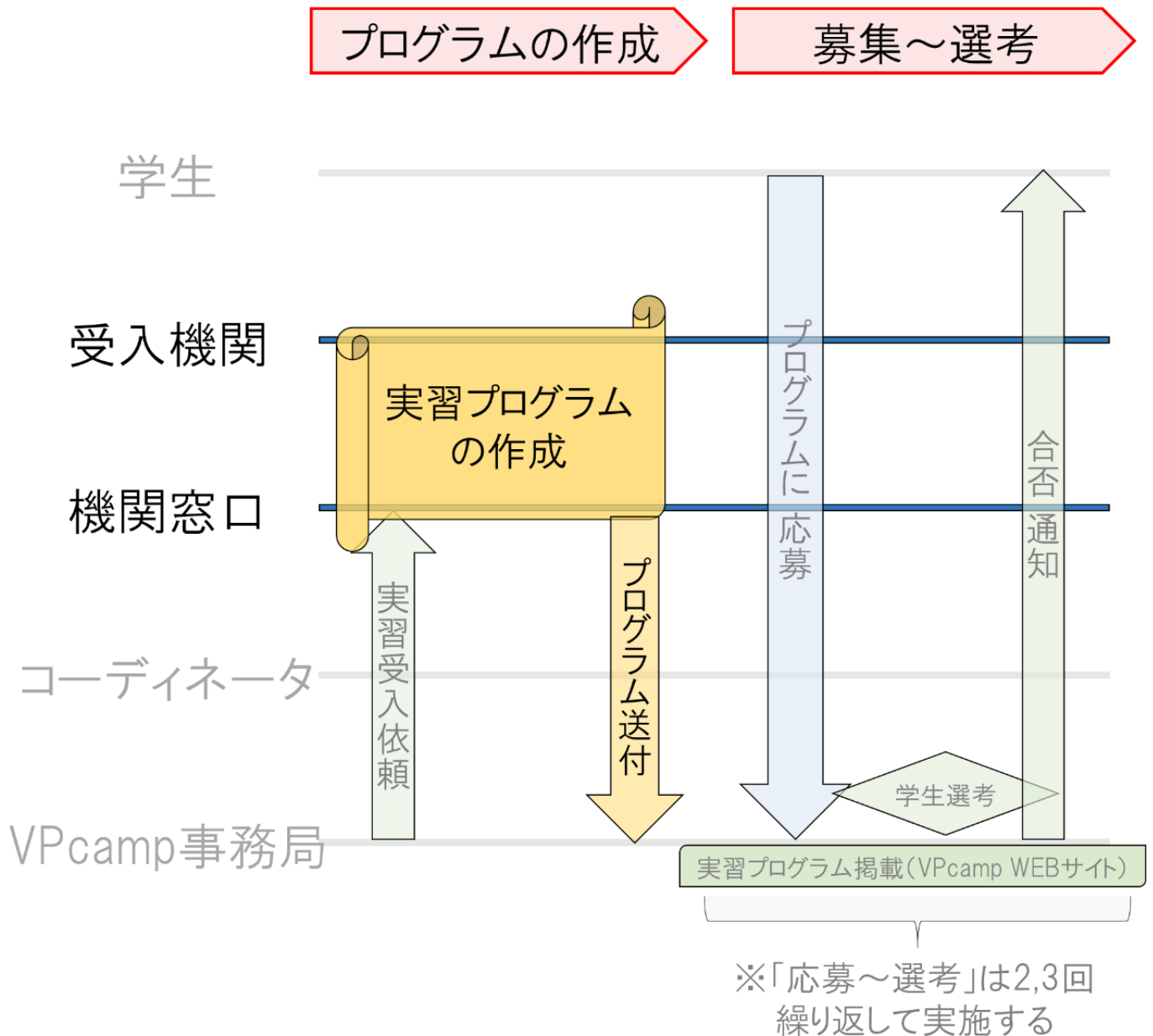
## 受入機関用

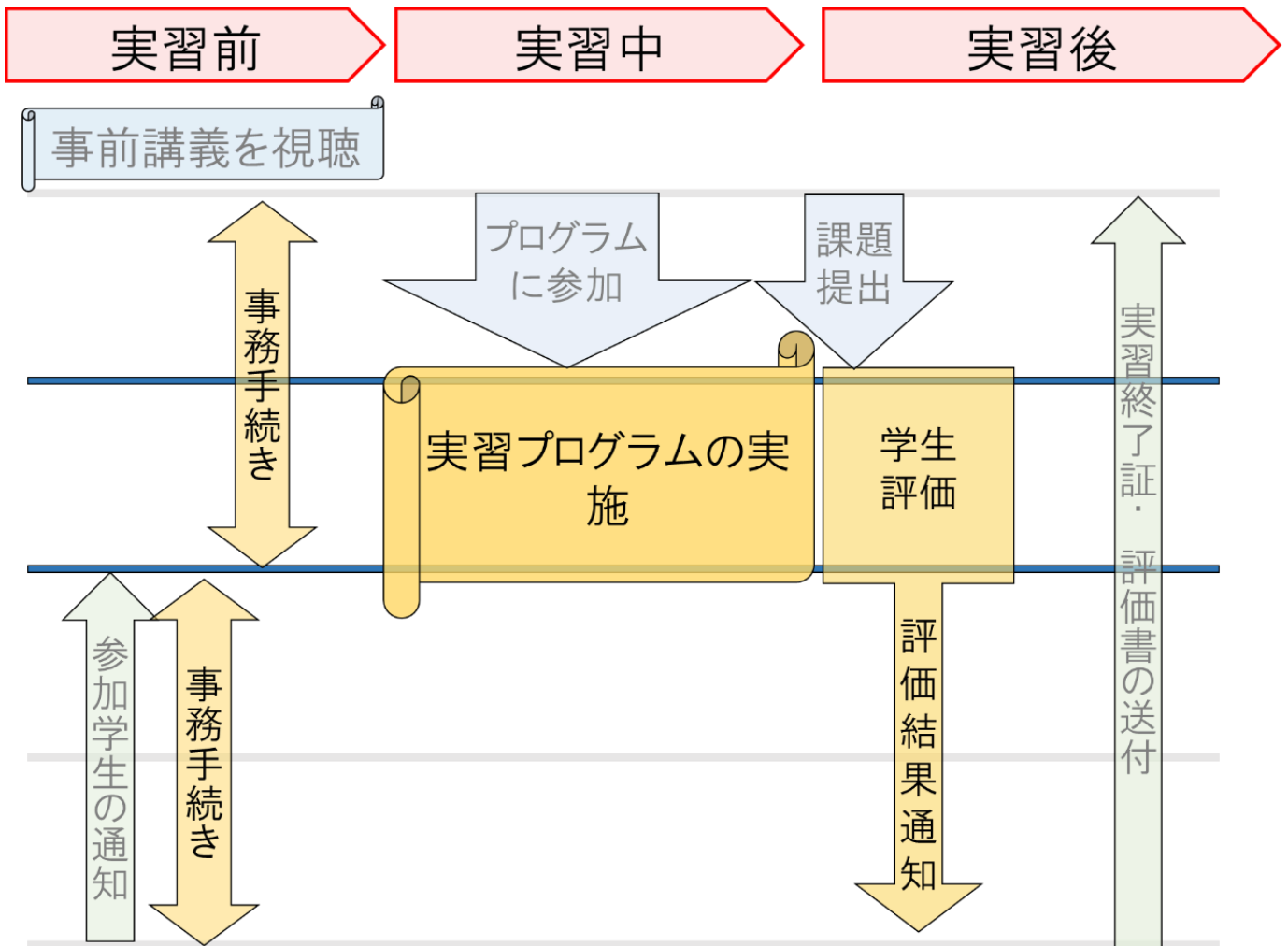
2016.09.ver

The logo for VPcamp, featuring the letters 'VP' in a stylized font above the word 'camp' in a lowercase sans-serif font, all contained within a red square.

VP  
camp

## VPcamp 実習プログラムの運営の流れ（概略フロー図）







## 実習プログラムの作成

### ～コーディネータ～

- 自治体等の公衆衛生を担う機関に学生実習の依頼を行う。

### ～実習受入機関（都道府県、市など）～

- 本事業における実習受入機関となることを了解する。
- プログラム雛形（p.12～19）を基に、実習プログラムの内容を作成する。
- 実習受入にあたっての参加条件、事前講義、消耗品（※）、HPでの宣伝内容等を決定し、実習プログラム記入フォームへ記入する。
- 完成したプログラムを VPcamp 事務局に送付する。

#### ※消耗品について

最低限必要となる購入希望の消耗品をご記入ください。全実習実施機関から回答が集まり次第、各機関へ購入可能な消耗品をご連絡いたします。ご希望に添えない場合もございますのでご了承ください。

### ～VPcamp 事務局～

- 届いたプログラムを VPcamp WEB サイトに順次掲載する。

### 実習内容

実習プログラム雛形（p.12～19）を参考に、自治体の特徴を活かした実習プログラムを作成してください。内容は単に、見学、講義にとどまらず、ラボワーク又はフィールドワークを含めたものとしてください。

また、実習場所へのアクセス方法、学生の服装や持ち物等についても検討してください。

### 日程

VPcamp 開催期間（8～9月、2～3月）中で、5日間から10日間で設定してください。（※5日間に満たない場合には、レポート課題必須）

### 課題

学生は、“毎日日誌を書く”という課題が課されています。その他にもレポート等課題を設定するかどうかを決定してください。（※5日間に満たない場合には、レポート課題必須）

**人数**

2~10 人程度で設定してください。

**参加条件**

対象学年や履修科目、英語能力、その他参加に必要な資格などを決定してください。

**事前講義**

実習実施前に、学生が受講しておくべき講義プログラムを決定してください。講義一覧以外に必要な科目があればコーディネータにお伝えください。必要がなければ事前講義を選ばなくてもかまいません。

**事前講義(p.20,21)**

VPcamp では、実習の効果を上げるために、学生が実習参加前に公衆衛生行政等の、実習に関連する内容の講義を受け、必要な知識を得た上で実習に臨むことを推奨しています。講義は WEB 上で受講してもらいます。1 コマ 20 分です。

講義動画のリスト <http://www.vetintern.jp/video/>

**消耗品**

実習プログラム実施に必要な消耗品をリストアップしてください。

**消耗品**

VPcamp では、平成 28 年度まで、実習に必要な消耗品（試薬など）を一定額の範囲内で提供することができます。発注・検収・検品は事務局で行うため、実習機関へ直納しなくてはならない場合については、別途ご相談下さい。

**ホームページの宣伝等**

募集ページを魅力的に見せるため、実習担当者の顔写真、実習風景などの写真、動画などがありましたら、事務局まで送付してください。また、実習タイトルや学生へのメッセージ等で自治体のアピールを行ってください。その他にこういった宣伝がしたいなど、ご相談がありましたら事務局までご連絡ください。可能な範囲で対応いたします。

## 募集～選考

### ～VPcamp 事務局～

- 全国の獣医系大学の学生を対象に、ポスターやチラシ、メーリングリスト等を用いて実習の宣伝を行う。
- 募集期間を設定し、学生の募集を行う。
- 募集期間の終了後、コーディネータとともに応募した学生の選考を行う。
- 学生に選考結果を通知する。

### ～コーディネータ～

- 学生の選考を行う。

### ～学生～

- VPcamp WEB サイトに掲載された、各機関のプログラムを確認し、参加を希望するプログラムを決定する。
- 募集期間中に実習プログラムへ WEB 上から応募する。
- 選考で合格となった場合は、実習への準備を行う。
- 選考で不合格となった場合は、次の募集に再応募できる。

### 学生募集

VPcamp では、応募システムの都合上、学生は1回の募集で1箇所にしか応募ができません。選考に漏れた学生のため、募集時期を複数設定しています。

### 学生選考

学生の選考は、受入機関からの要望や、大学間のバランス、参加動機、学年、出身都道府県等を参考に、事務局とコーディネータで行います。選考の際「地元出身者を優先してほしい」等の要望がある場合は、予め事務局までご連絡ください。

# 実習前

## ～学生～

- 合格通知後、実習受入機関の担当者より実習内容の詳細を受け取る。
- 保険加入証明書、緊急連絡先（親族・大学関係者）を事務局に提出する。
- 実習参加に必要な手続き（誓約書・履歴書等）を済ませる。
- 機関の担当者と連絡を取り合い、実習参加に当たっての疑問点等を解消しておく。
- 機関から指定された事前講義プログラムを受講し、知識を身につける。

## ～実習受入機関～

- 事務局から参加学生の情報を受け取る。
- 参加学生へ直接連絡を取り、実習内容の詳細や、担当者の連絡先、宿泊施設案内等を伝える。学生に伝えた内容は、メールの CC 等で VPcamp 事務局へもご連絡下さい。
- 実習受入に必要な手続き（誓約書や履歴書の送付等）を参加学生と行う。
- 実習受入に必要な手続き（覚書の締結等）を VPcamp 事務局と行う。
- 事務局から参加学生の緊急連絡先を受け取る。
- 実習実施時の注意点等を確認しておく。
- やむを得ず実習プログラムに大幅な変更を行う場合（日程の短縮、内容の大幅な変更など）は、直ちに学生へ連絡し、変更について了解を得て下さい。また、事務局へもその旨ご連絡下さい。

## ～VPcamp 事務局～

- 参加が決定した学生の情報を、実習受入機関に送付する。
- 参加学生に傷害保険と賠償責任保険への加入証明書の提出を指示し、保険加入を確認する。
- 学生から追加で提出される緊急連絡先の情報を、実習受入機関に送付する。
- 実習受入に必要な手続き（覚書の締結等）を実習受入機関と行う。
- 参加学生に対して、実習中の注意点、課題等を再確認する。

### 実習中の保険

VPcamp では、参加学生は傷害保険と賠償責任保険への加入が義務となっています。もし、それ以外の保険への加入が必要な場合は、事前に事務局までご連絡ください。

## 実習中

### ～学生～

- 実習初日、指定された場所に集合し、オリエンテーションを受ける。
- 担当者の指示に従い、プログラムに参加する。
- 毎日、実習の日誌をつける。

### ～実習受入機関～

- 実習プログラムに沿って実習を実施する。
- 実習プログラムの冒頭にはオリエンテーションを実施する
- 事故やけがの発生など緊急時には、全ての緊急連絡先に連絡するとともに、VPcamp 事務局にも連絡する。
- 実習終了時に、学生に課題（日誌、レポート等）の提出を指示する。  
（※提出期限は2週間以内、提出先は実習受入機関）
- やむを得ず実習プログラムに大幅な変更を行う場合（日程の短縮、内容の大幅な変更など）は、変更点に関して学生の合意を取り、代替のプログラムをご準備下さい。また、実習終了後に事務局へも変更の旨をご連絡下さい。  
※但し、実習プログラム変更に伴うキャンセル料等の金銭発生に対して、事務局は対応できないことをご留意下さい。  
（例）「日程の短縮」を行ったため、学生がすでに予約していた宿泊施設のキャンセル料が発生した。

### オリエンテーション

実習プログラムの冒頭にはオリエンテーションを実施し、以下の内容を行ってください。

- ✓ 誓約書の内容の徹底
- ✓ その他の注意事項（喫煙場所・時間、立ち入り禁止場所など）の説明
- ✓ プログラムの全体構成および毎日の時間割の説明
- ✓ 指導員、その他関係者の紹介
- ✓ 参加学生の自己紹介
- ✓ 実習機関の概要についての説明
- ✓ 実習に参加する際の服装
- ✓ 昼食場所などについての情報提供
- ✓ 実習で使う場所・施設の案内

**実習日誌(p.31)**

参加学生は毎日、実習日誌をつけることが課されています。

日誌は学生から確実に回収し、事務局まで送付（スキャンデータをメールで、またはコピーを郵送）をしてください。

また学生の評価にも是非利用してください。

日誌は事務局で確認した後に、WEB上で公開する可能性があります。公開する際には、公開する情報を実習受入機関に前もって相談いたします。

**実習風景の写真撮影のお願い**

VPcampでは、広告・宣伝のために、実習中の風景や集合写真等の提供をお願いしております。可能な限りで結構ですので、多くの写真を撮影していただけると大変助かります。

写真等の掲載について、参加学生の写真掲載承諾・拒否の回答は既に得ております（参加学生情報中に記載）ので、受入機関の方で、掲載可能と判断された写真を送付していただくようお願いいたします。

## 実習後

### ～学生～

- 日誌・レポート等の課題を期限内に実習受入機関に提出する。
- WEB 上から実習後アンケート（学生用）に回答する。
- 実習終了から 3 ヶ月以内に、VPcamp 事務局から実習修了証と個別評価書を受けとる。
- 必要があれば、修了書・評価書を基に単位の申請を行う。

### ～実習受入機関～

- 実習終了 1 週間後を締切目処に、学生から日誌、レポート等の課題を回収する。
- 提出課題等も参考にして学生の評価を行い（[WEB から学生評価シートをダウンロードして書き込み](#)）、事務局へメールで送付する。
- WEB 上から実習後アンケート（受入機関用）に回答する。
- 提出された学生の日誌を事務局へ送付する。（スキャンファイルをメールで送付、もしくは、現物を郵送）
- 実習中の風景等の公開可能な写真があれば、事務局へ送付する
- 実習参加学生の態度や気づいた点など、何かございましたら事務局までご連絡ください。（メールでのご連絡やアンケートへの記入など）

### ～VPcamp 事務局～

- 実習受入機関による、学生の評価を基に、「個別評価書」を作成する。
- 「実習修了証」と「個別評価書」を参加学生に送付する。
- 実習受入機関より送付された、学生の日誌や実習風景等を確認し、今後の VPcamp 広告活動（HP、チラシ、メーリングリスト等）に利用する。
- 学生、実習受入機関からのアンケート結果を基に、より多くの方が利用しやすい、システムへの改善を図る。

### 学生評価

VPcamp では、実習プログラムに参加した学生の評価を、実習を受け入れていただいた機関にお願いしております。実習先からの評価が学生の単位取得につながりますので、ご協力をお願いいたします。学生評価項目の回答は WEB 上からフォーマットをダウンロードし、行ってください。

評価項目は以下の通りです。

- ✓ 出席日数（欠席、遅刻、早退日数）
- ✓ レポート提出（有・無）
- ✓ レポートの内容評価（A 優れている・B やや優れている・C 普通・D 劣っている・E 未提出）
- ✓ 実習中の態度（A 規律正しかった・B 普通・C 規律正しくなかった）
- ✓ 実習内容の理解（A 理解できていた・B 普通・C できていなかった）
- ✓ 業務中の行動適応（A 適応していた・B 普通・C 適応していなかった）
- ✓ 意欲的姿勢（A 見られた・B 普通・C 見られなかった）
- ✓ 上記項目についての特記事項
- ✓ その他学生へのメッセージ

### WEB アンケート

VPcamp では、より円滑な運営システムを作成するため、実習受入機関にアンケートへの回答をお願いしております。是非ご協力をお願いします。

評価項目は以下の通りです。

- ✓ 受入人数
- ✓ 参加人数の適正
- ✓ 参加学生の基礎知識の適正
- ✓ 今後の実習参加学生に必要な事前講義
- ✓ 実習を通じた、知識の習得・実務経験の獲得
- ✓ 実習を通じた、就職先としての関心増大
- ✓ 実習実施の負担の適正
- ✓ 職場や職員の活性化
- ✓ 緊急連絡先の使用の有無
- ✓ 実施した実習プログラムの良い点悪い点
- ✓ 実習先からの声（ホームページに掲載）



# 実習プログラム雛形

## 1. 実習目的

公共獣医事を担う保健所、と畜場、食鳥処理場、動物愛護センター、衛生研究所などにおいて現場における公衆衛生分野の実務経験の幅広い獲得と高度で実践的な専門知識・技術を習得する。食品安全・感染症・動物福祉のいずれかまたは2つ以上の分野の体系的な実務経験を獲得する。

## 2. 期間および時期

1週間（5日間）又は2週間（土日をはさんで10日間）を基本とする。  
夏季休暇または春季休暇中に実施する。

## 3. 実施場所

保健所、と畜場、食鳥処理場、食肉衛生検査所、動物愛護センター、家畜保健衛生所、本庁、衛生研究所など都道府県の公共獣医事を担う機関。  
ラボワークまたはフィールドワーク実習は、1施設以上で行う。見学のみの実習は、実習の実施施設を含め2箇所以上で行うことが望ましい。

## 4. 内容

上記目標を達成するため、単に見学、講義にとどまらず、ラボワークまたはフィールドワーク（別表1）を含める。

## 5. 実習プログラム例

別表2のとおり。

**別表1** この表は実習プログラムの雛形であり、これらの実習をやることが必須ではない。実習先特有の魅力的な実習があればそちらを優先する。

● 保健所

1. 食品衛生に関わる業務の実習
  - 食中毒、食品衛生に関する相談の受付・調査の帯同実習
  - 食品関連施設の営業許可、監視指導、抜き取り検査の帯同実習
2. 生活衛生に関わる業務の実習
  - 理容所、美容所、クリーニング所、旅館業、興行場、公衆浴場の監視指導の帯同実習
  - 水道、河川、井戸等の水質検査の帯同・体験実習
3. 感染症に関わる業務の実習
4. 薬剤監視に関わる業務の実習

● と畜場・食鳥処理場

1. 生体検査の帯同実習
2. 解体前検査の帯同実習
3. 解体後検査の帯同実習（頭部検査、内臓検査、枝肉検査の帯同実習）
4. と畜場における HACCP の実施体験実習
5. 放射線物質検査の体験実習
6. 理化学検査の体験実習
7. 微生物検査の体験実習

● 動物愛護センター

1. 動物の保護と管理に関わる業務の実習
  - 動物の収容、犬猫の引取り、動物の管理、動物の譲渡、殺処分の帯同・体験実習
2. 動物愛護精神と適正飼養の普及啓発に関わる業務の帯同実習
  - 動物教室・イベント・講習会の開催の帯同実習
  - 動物取扱業、特定動物の監視・指導の帯同実習

● 家畜保健衛生所

1. 防疫対策実習（鳥インフルエンザ・口蹄疫が発生したときのシミュレーション等）
2. 病理検査の帯同・体験実習
3. ウイルス検査の帯同・体験実習
4. 生化学検査の帯同・体験実習
5. 細菌検査の帯同・体験実習
6. BSE 検査の体験実習

● 本庁

1. 都道府県内の畜産・公衆衛生情勢の講義
2. 都道府県条例の講義
3. 都道府県内の公務員獣医師の活動についての講義
4. 会議の参加

● 衛生研究所

1. 感染症疫学に関わる業務の実習
2. 臨床微生物に関わる業務の実習
3. ウイルスに関わる業務の実習
4. 食品微生物に関わる業務の実習
5. 生体影響に関わる業務の実習
6. 薬品に関する業務の実習
7. 水食品にかかわる業務の実習

● 動物園

別表 2

## 5 日間コース

## 実習案 1 (5 日間のと畜場を主体とするプログラム)

	午前		午後	
1 日目	オリエンテーション	業務説明	と畜検査の講義	
2 日目	生体検査の帯同実習		解体前検査の帯同実習	
3 日目	頭部検査の帯同実習	内臓検査の帯同実習	枝肉検査の帯同実習	と畜場における HACCP 実施体験実習
4 日目	他施設の見学		他施設の見学	
5 日目	他施設の見学		他施設の見学	

## 実習案 2 (5 日間の動物愛護センターを主体とするプログラム)

	午前		午後	
1 日目	オリエンテーション	業務説明	動物の保護と管理の帯同・体験実習 (動物の収容、犬猫の引取り、動物の管理、動物の譲渡、殺処分)	
2 日目	動物の保護と管理の帯同・体験実習			
3 日目	動物の保護と管理の帯同・体験実習		動物愛護精神と適正飼養の普及啓発の帯同・体験実習 (動物教室、イベントへの参加、講習会)	
4 日目	動物愛護精神と適正飼養の普及啓発の帯同・体験実習			
5 日目	他施設の見学		他施設の見学	

実習案 3 (5 日間の保健所を主体とするプログラム)

	午前		午後
1 日目	オリエンテーション	業務説明	食品衛生に関する帯同実習 (食中毒、食品衛生に関する相談の受付調査)
2 日目	食品衛生に関する帯同実習 (食品関連施設の営業許可、監視指導、抜き取り検査)		
3 日目	生活衛生に関する帯同実習 (理容所、美容所、クリーニング所、旅館業、興行場、公衆浴場監視指導)		
4 日目	生活衛生に関する帯同・体験実習 (水道、河川、井戸等の水質検査)		
5 日目	他施設の見学		他施設の見学

実習案 4 (5 日間の家畜保健衛生所を主体とするプログラム)

	午前		午後
1 日目	オリエンテーション	業務説明	防疫実習 (鳥インフルエンザ防疫のシミュレーション)
2 日目	防疫実習 (口蹄疫防疫のシミュレーション)		病理検査の体験実習
3 日目	ウイルス検査の体験実習		生化学検査の体験実習
4 日目	細菌検査の体験実習		BSE 検査の体験実習
5 日目	他施設の見学		他施設の見学

# 10日間コース（1施設重点型）

実習案5（10日間のと畜場を主体とするプログラム）

	午前		午後
1日目	オリエンテーション	業務説明	と畜検査の講義
2日目	生体検査の帯同実習		
3日目	解体前検査の帯同実習		
4日目	頭部検査実習の帯同実習		
5日目	内臓検査実習の帯同実習		
6日目	枝肉検査実習の帯同実習		
7日目	と畜場における HACCP の 実施体験実習		放射性物質検査の体験実習
8日目	BSE 検査の体験実 習	理化学的検査 の体験実習	微生物学的検査の体験実習
9日目	他施設の見学		他施設の見学
10日目	他施設の見学		他施設の見学

実習案6 (10日間の動物愛護センターを主体とするプログラム)

	午前		午後
1日目	オリエンテーション	業務説明	動物の保護と管理の帯同・体験実習 (動物の収容、犬猫の引取り、動物の管理、動物の譲渡、殺処分)
2日目	動物の保護と管理の帯同・体験実習		
3日目	動物の保護と管理の帯同・体験実習		
4日目	動物愛護精神と適正飼養の普及啓発の帯同・体験実習 (動物教室、イベントへの参加、講習会)		
5日目	動物愛護精神と適正飼養の普及啓発の帯同・体験実習 (動物教室、イベントへの参加、講習会)		
6日目	動物取扱業、特定動物の監視・指導の帯同実習		
7日目	他施設の見学		他施設の見学
8日目	他施設の見学		他施設の見学
9日目	他施設の見学		他施設の見学
10日目	他施設の見学		他施設の見学

## 10日間コース（2施設重点型）

実習案7（10日間の保健所と動物愛護センターを主体とするプログラム）

保健所			
	午前		午後
1日目	オリエンテーション	業務説明	食品衛生に関する帯同実習 (食中毒、食品衛生に関する相談の受付調査)
2日目	食品衛生に関する帯同実習 (食品関連施設の営業許可、監視指導、抜き取り検査)		
3日目	生活衛生に関する帯同実習 (理容所、美容所、クリーニング所、旅館業、興行場、公衆浴場監視指導)		
4日目	生活衛生に関する帯同・体験実習 (水道、河川、井戸等の水質検査)		
動物愛護センター			
5日目	オリエンテーション	業務説明	動物の保護と管理の帯同・体験実習 (動物の収容、犬猫の引取り、動物の管理、動物の譲渡、殺処分)
6日目	動物の保護と管理の帯同・体験実習 (動物の収容、犬猫の引取り、動物の管理、動物の譲渡、殺処分)		
7日目	動物の保護と管理の帯同・体験実習 (動物の収容、犬猫の引取り、動物の管理、動物の譲渡、殺処分)		
8日目	動物愛護精神と適正飼養の普及啓発の帯同・体験実習 (動物教室、イベントへの参加、講習会)		
9日目	他施設の見学		他施設の見学
10日目	他施設の見学		他施設の見学



# 事前講義プログラム

本事業では、公衆衛生行政の現場において高度で実践的な実習プログラムを行うため、参加学生には、実習参加前にある程度の知識を得てから実習に参加することを求めています。

参加学生は、実習受入機関から指定された講義と参加者必修講義を受講します。

事前講義プログラム <http://www.vetintern.jp/video/> PW: \_\_\_\_\_

講義タイトル		講師
0.参加者必修講義		
	VPcamp参加にあたって～実習を受ける際の心得～実習チェックリスト	東京大学 杉浦勝明
1. 獣医公衆衛生行政・法規		
1-1	公衆衛生と獣医師	一般財団法人 日本冷凍食品検査協会 加地祥文
1-2	獣医公衆衛生行政の仕組み	一般財団法人 日本冷凍食品検査協会 加地祥文
1-3	公衆衛生行政のための法律 総論 I (食品衛生法、と畜場法、食鳥検査法)	一般財団法人 日本冷凍食品検査協会 加地祥文
1-4	公衆衛生行政のための法律 総論 II (感染症法)	一般財団法人 日本冷凍食品検査協会 加地祥文
1-5	日本の食品安全行政のしくみ	内閣府 食品安全委員会 小財忠
1-6	食品安全のリスク評価について	内閣府 食品安全委員会 松下茜
1-7	保健所・食肉衛生検査所の業務内容	一般財団法人 日本冷凍食品検査協会 加地祥文
1-8	食品衛生監視員の役割	東京家政大学 森田幸雄
1-9	と畜検査員の役割およびと畜処理	東京家政大学 森田幸雄
1-10	と畜場で全部廃棄・部分廃棄になる疾病	東京家政大学 森田幸雄
1-11	動物愛護管理行政について	環境省 今西保
1-12	狂犬病予防業務 動物愛護管理業務について	東京都 動物愛護相談センター 新井 英人
1-13	「食鳥検査」について	宮城県 福祉保健部衛生管理課 下村高司
1-14	食鳥処理場における衛生管理 (HACCPを含む)	宮城県 福祉保健部衛生管理課 下村高司
2. 家畜衛生行政・法規		
2-1	最近の家畜衛生をめぐる情勢について (国内防疫 I)	農林水産省 石川清康
2-2	最近の家畜衛生をめぐる情勢について (国内防疫 II)	農林水産省 石川清康
2-3	家畜衛生行政 動物検疫 (輸出入検疫)	農林水産省 伏見啓二
2-4	動物薬事行政 I	麻布大学 平山紀夫
2-5	動物薬事行政 II	麻布大学 平山紀夫
2-6	家畜保健衛生所の役割	愛知県 家畜保健衛生所 神谷俊樹
2-7	家畜防疫員の責務	愛知県 家畜保健衛生所 神谷俊樹
2-8	動物検疫所について	農林水産省 伊藤和夫
2-9	動物検疫	農林水産省 伊藤和夫
2-10	動物検疫所の獣医師の責務	農林水産省 伏見啓二
3. 食品安全		
3-1	と畜場で防いでいる人獣共通感染症について	東京家政大学 森田幸雄
3-2	と畜場HACCPについて	東京家政大学 森田幸雄
3-3	食肉の対米・対EU輸出	東京家政大学 森田幸雄
3-4	農場HACCPの概要	那須イーテイ研究所 西貝正彦
3-5	農場HACCP認証審査について	那須イーテイ研究所 西貝正彦
3-6	食品由来感染症の概要	国立医薬品食品衛生研究所 五十君静信
3-7	野生鳥獣肉の衛生対策 (1)	日本大学 壁谷英則
3-8	野生鳥獣肉の衛生対策 (2)	日本大学 壁谷英則
4. 感染症防疫		
4-1	人獣共通感染症と新しい獣医師の役割 I	千葉科学大学 吉川泰弘
4-2	人獣共通感染症と新しい獣医師の役割 II	千葉科学大学 吉川泰弘
4-3	アルボウイルス感染症	国立感染症研究所 高崎智彦
4-4	家畜に分布する薬剤耐性菌の現状と対策	岐阜大学 浅井鉄夫
4-5	動物に由来する薬剤耐性菌	岐阜大学 浅井鉄夫
4-6	愛玩動物由来感染症	国立感染研究所 今岡浩一
4-7	狂犬病ウイルスについて	国立感染研究所 井上智
5. 動物福祉		
5-1	小動物診療分野で期待する職業倫理 I	獣医療問題研究会 山村穂積
5-2	小動物診療分野で期待する職業倫理 II	獣医療問題研究会 山村穂積
5-3	災害時動物マネジメント (資料のみ)	新潟県動物愛護センター 遠山潤

6.畜産資材		
6-1	動物用ワクチンについて	麻布大学 平山紀夫
6-2	ペットの食の安全確保 ペットフードの種類と市場	獣医療法食評価センター 藤井立哉
6-3	ペットの食の安全確保 ペットフードの製造と品質管理	獣医療法食評価センター 藤井立哉
6-4	薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン	動物医薬品検査所 山本実
6-5	配合飼料の製造と品質管理 -牛用配合飼料を中心に-	雪印種苗株式会社 多田真一
6-6	飼料原料となる穀物の需給 (1)	関東グレーンターミナル株式会社 大盛浩典
6-7	飼料原料となる穀物の需給 (2)	関東グレーンターミナル株式会社 大盛浩典
6-8	農場のバイオセキュリティ (1)	株式会社スワイン・エクステンション&コンサルティング 大竹聡
6-9	農場のバイオセキュリティ (2)	株式会社スワイン・エクステンション&コンサルティング 大竹聡
6-10	養豚管理獣医師の業務と役割 ~養豚場へのコンサルティング~	有限会社サミットベテリナリーサービス 石関紗代子
7.獣疫医学		
7-1	はじめに	東京大学 杉浦勝明
7-2	牛白血病の疫学調査	動物衛生研究所 小林創太
7-3	生産現場のデータを用いた疫学研究	酪農学園大学 中田健
7-4	動物感染症とシミュレーションモデル	動物衛生研究所 山本健久
7-5	ペット保険データを用いた疫学研究	アニコム損害保険株式会社 井上舞
8.馬の臨床学		
8-1	馬の臨床学総論	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 上野儀治
8-2	馬の構造特性	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 桑野睦敏
8-3	馬の臨床学総論と競馬におけるドーピング	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 上野儀治
8-4	馬の運動器疾患	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 笠嶋快周
8-5	馬の循環器・呼吸器疾患	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 大村 一
8-6	馬の消化器・眼科疾患	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 和田信也
8-7	臨床繁殖学・産科学	日本中央競馬会(JRA) 日高育成牧場 南保泰雄
8-8	馬感染症総論	日本中央競馬会(JRA) 競走馬総合研究所 奥河寿臣
9.国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所		
9-1	OIE入門-獣疫医学を志す学生のために-	OIEアジア太平洋地域代表 釘田博文
9-2	OIEの役割と活動(1)-動物疫病情報の収集提供-	OIEアジア太平洋地域代表 釘田博文
9-3	OIEの役割と活動(2)-国際基準の設定-	OIEアジア太平洋地域代表 釘田博文
9-4	OIEの役割と活動(3)-科学的ネットワーク-	OIEアジア太平洋地域代表 釘田博文
9-5	OIEの役割と活動(4)-各国・地域への支援-	OIEアジア太平洋地域代表 釘田博文
10.その他		
10-1	家畜改良増殖目標について	農林水産省 菊池淳志
10-2	酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針について	農林水産省 鈴木恭人
10-3	アフリカ豚コレラ~養豚産業への世界的脅威~	サンチエス・ヴィスカイーン教授
10-4	The training of official veterinarians in France. I	Professor Marc ARTOIS
10-5	The training of official veterinarians in France. II	Professor Marc ARTOIS
5 8 講義 (再収録 4 講義を含む) + 17 講義		

## 資料 1

### 覚書

#### 〇〇〇〇における実習・インターンシッププログラムに関する覚書

〇〇〇〇と文部科学省「大学における公共獣医事教育推進委託事業」チーフコーディネータ（以下「チーフコーディネータ」という。）は、別記名簿に記載されている学生（以下「学生」という。）が、〇〇〇〇において実習・インターンシッププログラム（以下「実習」という。）を行うことについて、下記のとおり覚書を締結する。

#### 記

##### 第1 実習実施に係る基本的役割等

〇〇〇〇は、別記のとおり学生を就業体験実習生として受け入れ、学生に対し必要な指導・助言を行う。チーフコーディネータは学生に対し、本覚書に定める事項を周知するとともに、円滑な実習を進めるため必要な指導及び監督を行う。

##### 第2 実習時間、手当等の支給及び事故への対応等

- (1) 実習時間は、午前8時30分から午後5時まで（以下「定時」という。）とする。このうち午後0時から午後1時までを休憩時間とする。なお、定時以外にも若干の実習を行うことがある。
- (2) 〇〇〇〇は、実習中、学生に対し、通勤費（自宅及び滞在先より）、手当（日当）、食費及び旅費（滞在先までの往復旅費）を支給しない。
- (3) チーフコーディネータは、学生に傷害保険及び賠償責任保険に加入させ、学生が実習中において関係他者（〇〇〇〇、人物、財物等）に損害、損傷を与えた場合は、当該保険により補償する。

##### 第3 実習中における遵守事項等

- (1) 学生は、実習に関して指導員の指示に従い、実習期間中は実習に専念し、公務の信用を傷つけ、又は公務員全体の不名誉となるような行為を行ってはならない。
- (2) 実習の欠務は、正当な事由による場合以外は認めない。やむを得ず欠務する場合は、事前に指導員に申し出て、その指示に従うこととする。正当な事由による場合であっても2日以上欠務した場合、〇〇〇〇は、実習を打ち切ることができることとする。
- (3) 学生は、〇〇〇〇における実習活動中に知り得た情報（公開されているものを除く。）の開示については、指導員の指示に従わなければならない。実習終了後においても、同様とする。
- (4) 学生は、実習の成果を論文等により外部へ発表する場合には、事前に〇〇〇〇長の承認を受けなければならない。
- (5) 〇〇〇〇は、学生がこの覚書に従わない場合、その他実習を継続しがたい事由が生じた場合は実習を打ち切ることができる。〇〇〇〇は、実習を打ち切った場合は、速やかにチーフコーディネータにその旨を通知する。

##### 第4 誓約書の提出

学生は、実習に先立ち、〇〇〇〇に対して誓約書を提出する。実習後にアンケートを提出する。

##### 第5 協議

本覚書に定めがない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、〇〇〇〇とチーフコーディネータが協議の上決定するものとする。

本覚書の締結を証するため、本書2通を作成し、〇〇〇〇及びチーフコーディネータが捺印の上それぞれ1通を保管するものとする。

平成 27年 7月 日

（日付は、空欄。当方において本覚書を受領した日付を記入し、貴職へ返送致します。）

〇〇〇〇長

〇〇〇〇 印

文部科学省「大学における公共獣医事教育推進委託事業」

チーフコーディネータ

〇〇〇〇 印

(別記名簿)

文部科学省大学における公共獣医事教育推進委託事業 就業体験実習生

所属 (学年)	住所	氏名
〇〇大学 (〇年)		〇〇〇〇 (〇〇〇〇)

## 誓 約 書 (例)

資料 2

〇〇〇〇〇長 殿

〇〇〇〇〇においてインターンシッププログラムを受けるに当たり、〇〇〇就業体験実習実施要領等を理解し、実習生として下記のとおり遵守することを誓約します。

### 記

- 1 実習期間中は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めること。
- 2 実習期間中は〇〇〇〇〇職員が遵守すべき法令及び規則を守るとともに、実習生としての活動について指導員の指導、監督等に従うこと。
- 3 実習期間中は、特定の政治政党、宗教、企業、団体の利益のための行為を行わないこと。
- 4 〇〇〇〇〇における実習活動中に知り得た情報（公開されているものを除く。）の開示については、指導員の指示に従うこと。実習終了後においても、同様とすること。
- 5 実習の成果を論文等により外部へ発表する場合には、事前に〇〇〇〇〇長の承認を受けること。
- 6 病気等のため予定されていた実習を受けられない場合は、あらかじめ、指導員にその旨を連絡すること。やむを得ない場合は、事後速やかに指導員にその旨を連絡すること。

平成 年 月 日

大 学 名 学 生 氏 名 ㊟

資料 3

実習プログラムの所定フォーマット 記入例

	ホームページへの対応	項目	例
		自治体名前	〇〇県
1	公開	タイトル(目立つもの、学生の興味を引くものが良いです)	忍者の里〇〇県で公衆衛生獣医師の術を修得し食の安全を守れ！
2	公開	ホームページで募集するときの学生へアピールしたいことを教えてください。 (例:実習担当者からのメッセージや、この県の実習はこういうところが面白い、等)	〇〇県では対米対 EU 輸出が可能だと畜場の施設を有しています。公衆衛生の獣医師を目指すあなたには持って来いの実習だと思います。実習先として、動物愛護センターもあるので、小動物臨床をやってこられた方もその技術を生かすことができます。また本県は、食べ物が大変おいしく観光も充実しております。ぜひ、本県の実習に参加し公衆衛生を学んでください。
3	画像を公開 (任意)	担当者の顔写真や実習をアピールする写真があればご提供をお願いします。任意としましたが、是非写真をお願いいたします。画像データはメール vpcamp@vetintern.jp に送付をお願いします。	実習担当者の顔と実習施設の写真があります。メールにて送ります。
4	公開(任意)	自治体や、実習先のホームページの URL	<a href="http://www.〇〇.lg.jp">http://www.〇〇.lg.jp</a>
5	動画等を公開(任意)	実習を宣伝する際に、ホームページに載せたいムービーやその他の特別な項目があれば教えてください。対応できる範囲で実現させたいと思います。	ムービーをメールにて送付します。
6	公開	実習日程(日数) できれば 5 日以上をお願いします	8 月 10 日(月)~8 月 14 日(金) 5 日間
7	公開	実施場所①名前と住所	△△保健福祉事務所(△△保健所): △△市材木町 1-2-6
	公開	実施場所②名前と住所	△△食肉衛生検査所: △△市常磐城 3-3-59
	公開	実施場所③名前と住所	動物愛護センター: □□市大字菱平字前新田 2725
	公開	実施場所④名前と住所	

各種書類様式

	公開	実施場所⑤名前と住所		
	公開	実施場所⑥名前と住所		
8	公開	実習開始日の集合日時場所		8月10日9:00に△△保険福祉事務所の正門にて集合
9	公開	実習場所までのアクセス方法		□□駅から2番線バス(××方面行き)にのり××停留所で下車をする。そこから徒歩10分
10	公開(任意)	宿泊施設の案内		□□駅や××停留所付近にビジネスホテルが複数あります。各自で宿泊予約をしてください。
11	公開	実習参加時の服装		私服(白衣や長靴は貸し出します)
12	公開	実習参加時の持ち物		筆記用具
13	公開	実習プログラム詳細	文章	△△保健福祉事務所(△△保健所) <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品衛生、動物愛護、狂犬病予防関係業務概要説明</li> <li>・食品関係営業施設の見学</li> <li>・動物の収容施設の見学 等</li> </ul>
				△△食肉衛生検査所 <ul style="list-style-type: none"> <li>・と畜検査業務概要説明</li> <li>・と畜検査現場体験</li> <li>・検査室内検査(細菌、理化学、BSE等)体験 等</li> </ul>
				動物愛護センター <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物愛護業務概要説明</li> <li>・動物ふれあい体験</li> <li>・動物の飼養管理体験</li> <li>・動物の健康管理体験 等</li> </ul>
				△△保健福祉事務所 <ul style="list-style-type: none"> <li>食品衛生関係業務概要説明</li> <li>動物愛護・狂犬病予防関係 業務概要説明</li> </ul>
	公開	1日目	場所	△△保健福祉事務所
	公開		午前	食品衛生関係業務概要説明 動物愛護・狂犬病予防関係 業務概要説明
	公開		午後	動物収容施設見学 食品関係 営業施設見学
	公開		場所	△△食肉衛生検査所

各種書類様式

	公開		2日 目	午前	と畜検査業務 概要説明 検査室内検査体験 (細菌検査、理化学検査、BSE 検査等)
	公開			午後	検査室内検査体験 (細菌検査、理化学検査、BSE 検査等)
	公開		3日 目	場所	△△食肉衛生検査所
	公開				午前
	公開			午後	と畜検査現場体験 (生体検査、解体検査等)
	公開			4日 目	場所
	公開		午前		
	公開		午後		犬の行動学習とトレーニング体験
	公開		5日 目	場所	動物愛護センター
	公開				午前
	公開			午後	動物ふれあい(教室)体験
14	公開		受入人数を教えてください		
15	公開	実習の対象学年を教えてください			4、5年生、院生
16	公開	実習後にレポートを学生に課す場合はその課題をを教えてください			レポート(1000字程度)「実習中に学んだことについて
17	公開	必要な英語能力があれば教えてください			なし
18	公開	必要履修科目があれば教えてください			公衆衛生学履修者
19	公開	その他参加に必要な資格があれば教えてください			動物にアレルギー体質ではなく、扱いになれていること。実習場所まで自分でレンタカーなどの交通手段を確保できること。
20	公開	事前講義プログラムの必要科目があれば教えてください			食品衛生監視員の役割
21	公開	学生から実習機関への提出書類(誓約書など)があれば教えてください			誓約書

各種書類様式



	非公開情報	学生から緊急連絡先と保険加入証明書以外の提出を求める場合は、原則学生と実習機関が直接やり取りをしてください。もし、直接のやり取りが不可能な場合はここにその方法を記入してください。	
22	公開	加入すべき傷害保険の種類(学生がケガをした場合の保障)	「学生教育研究災害傷害保険」(JEES)もしくは「学生総合共済(生命共済)」(大学生協)もしくはこれらと同等のもの
23	公開	加入すべき賠償責任保険の種類(学生が実習機関のものを壊したり、損害を加えた場合の保証)	「学研災付帯賠償責任保険」(JEES)もしくは「学生賠償責任保険」(大学生協)もしくはこれらと同等のもの
24	公開(任意)	ホームページに公開してもよい問い合わせ先があれば教えてください。 (学生からの実習についての問い合わせが想定されます)	〇〇家畜保健衛生所 山田太郎 vpcamp@pref.vpcamp.lg.jp
25	非公開情報	希望する消耗品(試薬、被服など)	有。リストは別シート”消耗品リスト1”に存在。
26	非公開情報	事務局から実習機関への提出書類(覚書や依頼書など)があれば教えてください	覚書
	非公開情報	事務局から実習機関に提出する書類(覚書など)には、原則チーフコーディネータの署名のみがなされます。例外的に、参加学生の記名が必要である、あるいは参加学生の署名が必要である場合には教えてください。	覚書はチーフコーディネータの署名のみを求めます。書式についてはメールにて送付いたします。
27	非公開情報	実習窓口の方のお名前①	山田太郎
	非公開情報	担当課①	生活衛生課動物衛生係
	非公開情報	電話①	03-1111-2222

各種書類様式

	非公開情報	メールアドレス①	<a href="mailto:vpcamp@pref.vpcamp.lg.jp">vpcamp@pref.vpcamp.lg.jp</a>
	非公開情報(任意)	実習窓口の方のお名前②	
	非公開情報(任意)	担当課②	
	非公開情報(任意)	電話番号②	
	非公開情報(任意)	メールアドレス②	
28	非公開情報(任意)	その他(予備記入欄)	
29	非公開情報(任意)	選考の際の優先事項	〇〇県出身者を優先する

# 個別評価書

タイトル			
自治体			
実習実施機関			
評価機関			
評価者氏名			
学生氏名			
学生所属	大学名： 在籍学年： 所属講座：		
事前講義	講義名： 講義名： 講義名：		
レポート	課題： レポートの評価： 特記事項：		
実習期間	2015年 月 日 ~ 2015年 月 日		
出席状況	出席日 遅刻日 欠席日 早退日		
評価項目	評	価	特記事項
規律正しい態度であり、実習中支障がなかった	A・B・C	A 規律正しかった	
業務内容の的確な理解ができていた	A・B・C	A 理解できていた	
業務内容に適応した行動であった	A・B・C	A 適応していた	
目的意識をもって意欲的に取り組む姿勢が見られた	A・B・C	A 見られた	
メッセージ：			
その他：			

各種書類様式

## 資料5

## VPcamp 日誌

第 日	月 日 ( ) : ~ :
実習部門 (実習場所)	
実習指導者の 役職・氏名	
実習のテーマ・ 課題	
実習概要 (実習した業務、手順、内容など)	
特記事項 (学んだこと、反省点、明日の予定など)	



## 参考 1

### 平成 26 年度「大学における公共獣医事教育推進委託事業」

(募集要項より抜粋)

#### 事業の趣旨

社会のグローバル化の進展により、国境を超える家畜伝染病、人獣共通感染症等の国際的な防疫に係る人材育成を担う獣医学教育の強化はますます重要な課題となっている。国際獣疫事務局は近年、「公共獣医事を担う人材の養成」を強化することを各国に要請しており、実践的な体験を通じて科目の内容の理解増進を図るよう求めている。本事業は、こうした獣医学教育に関する国際的な要請を踏まえ、公共獣医事を担う機関(保健所、家畜保健衛生所、と畜場等)の協力を得て、現場における実務経験の獲得を柱にした実践的な臨床実習の実施体制の充実・強化を図ることを目的とするものである。

#### 事業の内容

**【分野1】公衆衛生行政等における全国の実習システムの構築** (東京大学担当)  
公衆衛生行政等に携わる知識・技術を獲得するため、保健所や空港・港湾等の検疫所、食品衛生関係行政機関等における実習機会の確保、高度な実習プログラムの開発を行い、全国の獣医系学生がこれらの実習先やプログラムを広く利用できるような体制の整備を図る。(例:実習先の開拓、実習方法・実習内容の策定、教材開発、実習の手引の作成、実習機関等の情報提供等)

公衆衛生獣医師インターンシップ <http://www.vetintern.jp/>

**【分野2】畜産等分野における全国の実習システムの構築** (岐阜大学担当)  
農畜産関係行政携わる知識・技術を獲得するため、食肉衛生検査所や家畜保健衛生所、農畜産関係行政機関等における実習機会の確保、高度な実習プログラムの開発を行い、全国の獣医系学生がこれらの実習先やプログラムを広く利用できるような体制の整備を図る。(例:実習先の開拓、実習方法・実習内容の策定、教材開発、実習の手引きの作成、実習機関等の情報提供等)

産業動物臨床 <https://www.animalhospital.gifu-u.ac.jp/koutei/>

大学における公共獣医事教育推進委託事業の実施体制

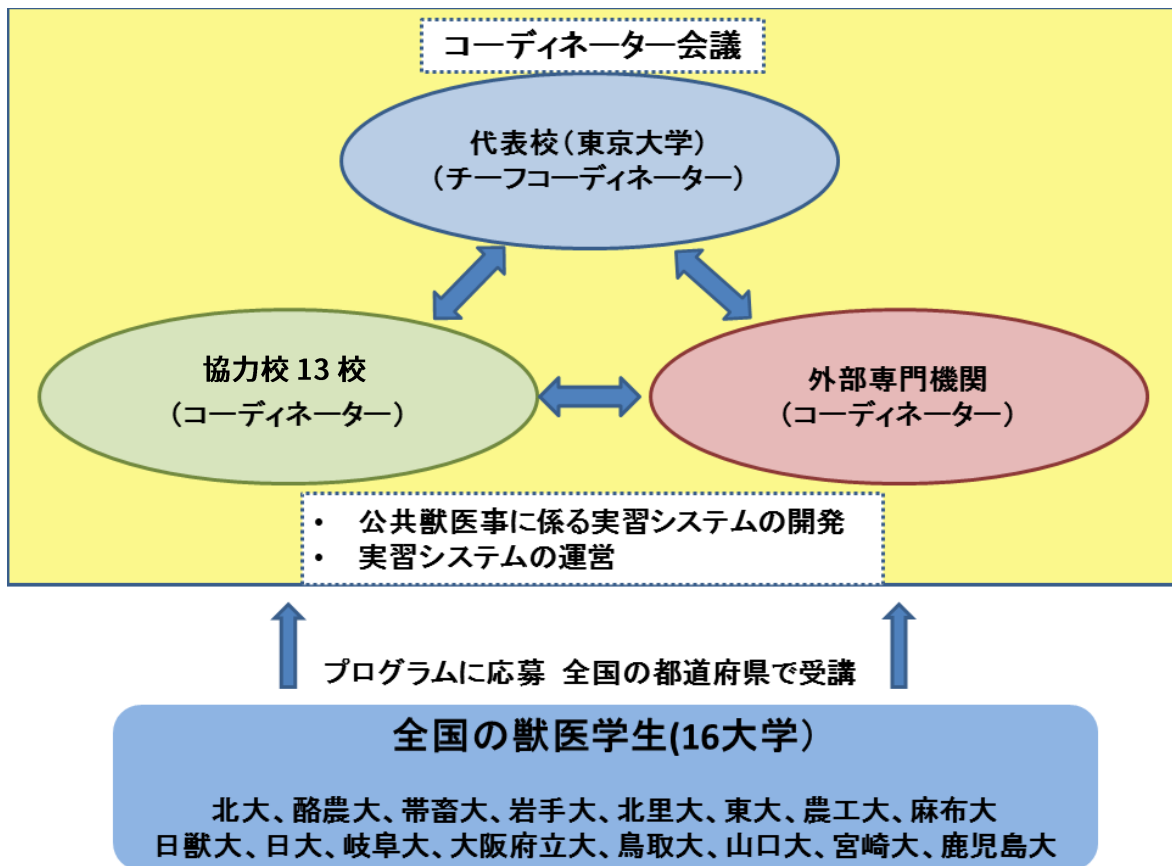


図 外部専門機関などとの連携・協力体制

参考 3

コーディネーターなど メンバー表

	役割	大学	氏名	メールアドレス
1	チーフコーディネーター	東大	杉浦勝明 *	aksugiur@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
2	コーディネーター	北大	苅和宏明	kariwa@vetmed.hokudai.ac.jp
3	コーディネーター	帯広畜産	廣井豊子	tykhiro@obihiro.ac.jp
4	コーディネーター	岩手大	村上賢二	muraken@iwate-u.ac.jp
5	コーディネーター	岩手大	鎌田 洋一	ykamata@iwate-u.ac.jp
6	コーディネーター	岩手大	佐藤繁	sshigeru@iwate-u.ac.jp
7	コーディネーター	東大	尾崎博	aozaki@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
8	コーディネーター	東大	望月学	amm@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
9	コーディネーター	東大	堀正敏	ahori@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
10	コーディネーター	東大	芳賀猛	ahaga@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
11	コーディネーター	東大	山田章雄	aakioyam@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
12	コーディネーター	東大	綱嶋るみ *	atsuna@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
13	コーディネーター	農工大	白井淳資	jshirai@cc.tuat.ac.jp
14	コーディネーター	農工大	藤川浩	fujik@cc.tuat.ac.jp
15	コーディネーター	農工大	竹原一明	takehara@cc.tuat.ac.jp
16	コーディネーター	岐阜大	北川均	hkitagaw@gifu-u.ac.jp
17	コーディネーター	大阪府立大	笹井和美	ksasai@vet.osakafu-u.ac.jp
18	コーディネーター	鳥取大	伊藤壽啓	toshiito@muses.tottori-u.ac.jp
19	コーディネーター	山口大	豊福肇	toyofuku@yamaguchi-u.ac.jp
20	コーディネーター	宮崎大	後藤義孝	a0d502u@cc.miyazaki-u.ac.jp
21	コーディネーター	鹿児島大	中馬猛久	chuma@vet.kagoshima-u.ac.jp
22	コーディネーター	北里大学	上野俊治	ueno@vmas.kitasato-u.ac.jp
23	コーディネーター	日大	壁谷英則	kabeya.hidenori@nihon-u.ac.jp
24	コーディネーター	日獣大	落合由嗣	yochiai@nvl.u.ac.jp
25	コーディネーター	都庁	中村重信	Shigenobu_Nakamura@member.metro.tokyo.jp
26	事務補佐員	東大	館千恵 *	atachi.chie0191@mail.u-tokyo.ac.jp

\*印：事務局メンバーを示す

【事務局】 東京大学大学院 農学生命科学研究科 農学国際専攻 国際動物資源科学研究室  
 〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1  
 Tel : 03-5841-5383 Fax : 03-5841-5191

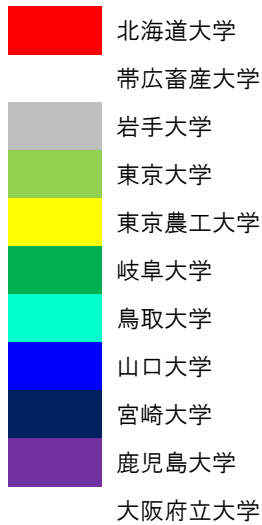
参  
考



参考 4

各コーディネータの担当都道府県

コーディネータ	担当都道府県
北海道大学	北海道
帯広畜産大学	担当なし
岩手大学	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島 of 各県
東京大学	栃木、群馬、埼玉、東京、新潟、長野、滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、香川、愛媛、沖縄の各都県及び自治体ならびに国などの機関
東京農工大学	茨城、千葉、神奈川、山梨、静岡の県
岐阜大学	富山、石川、福井、岐阜、愛知、三重の各県
鳥取大学	鳥取、岡山、兵庫、島根の各県
山口大学	広島、山口、徳島、福岡、高知の各県
宮崎大学	佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎の各県
鹿児島大学	鹿児島県
大阪府立大学	担当なし



- ・ 国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所
- ・ 動物検疫所
- ・ 動物衛生研究所
- ・ 国立感染症研究所
- ・ 動物医薬品検査所
- ・ 農林水産消費安全技術センター(FAMIC)
- ・ 東京農工大学農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センター
- ・ 日本中央競馬会(JRA)

## VPcamp 事務局

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院 農学生命科学研究科

農学国際専攻 国際動物資源科学研究室

TEL 03-5841-5383 MAIL [vpcamp@vetintern.jp](mailto:vpcamp@vetintern.jp)

<http://www.vetintern.jp/>



## 参考資料 6

### 実習修了証書

(実習終了後に学生へ配布する証明書)



# 修了証書

○○ ○○ 殿

あなたは平成 28 年●月●日から●月●日  
まで開催された獣医学生のための実習・  
インターンシッププログラム（■■県）に  
参加し、所定の過程を修了したことを  
証します。

平成 28 年●月●日

文部科学省 大学における公共獣医事教育推進委託事業

チーフコーディネータ 杉浦勝明